



第3回

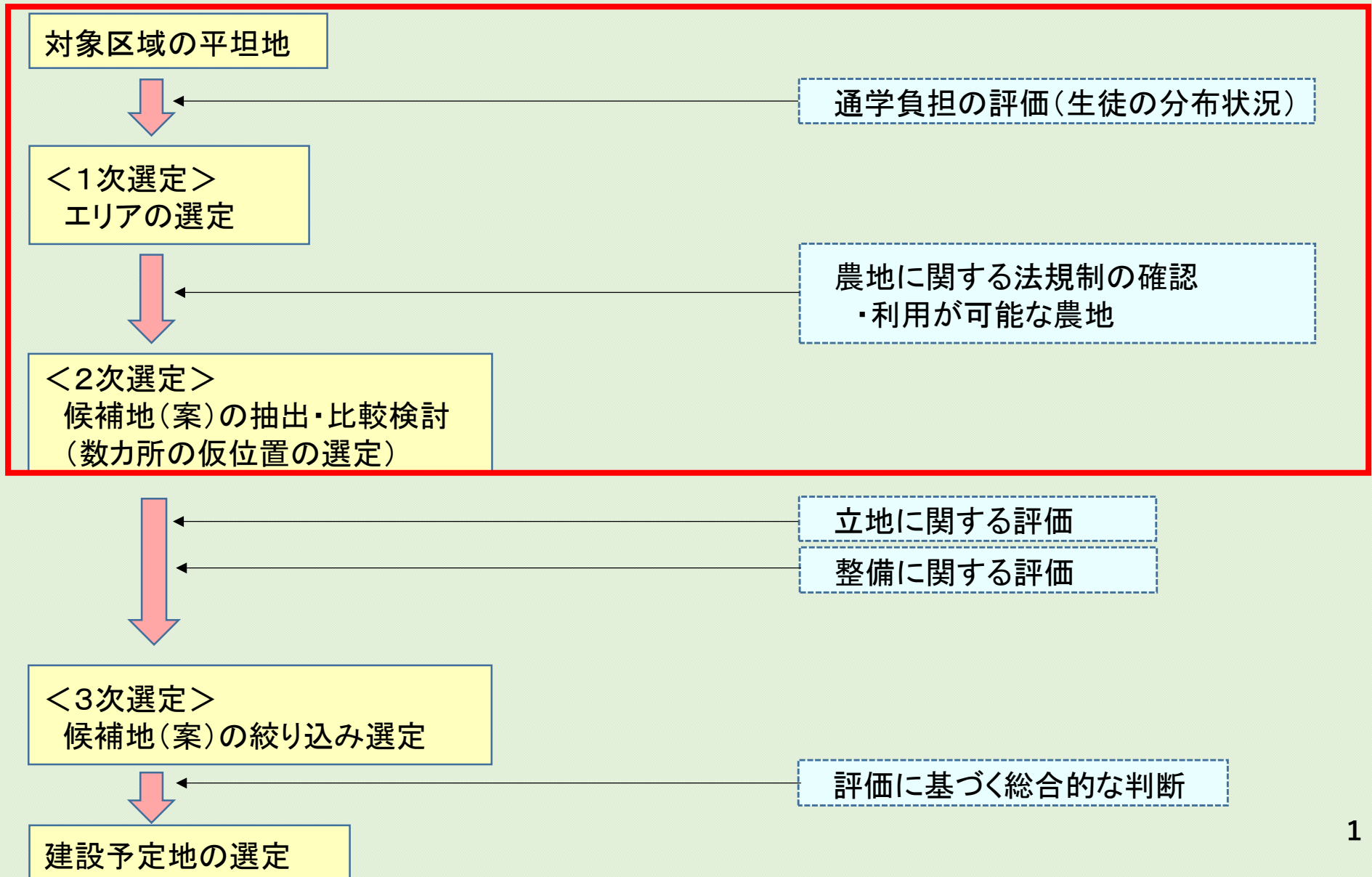
第二中学校、伯太中学校 再編地域協議会

～安来市立小中学校の目指す望ましい教育環境の整備に向けて～

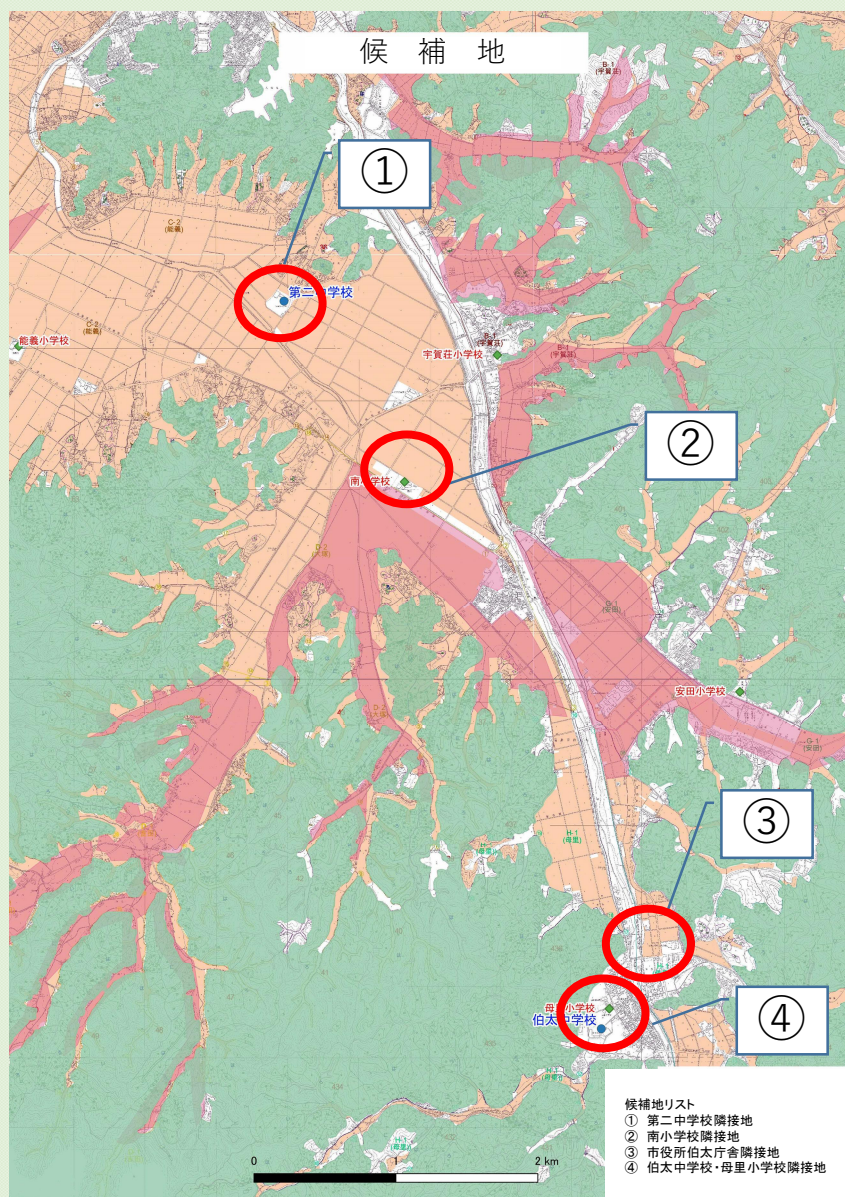


安来市教育委員会

中学校の選定フロー



2次選定（候補地（案）の抽出・比較検討）



候補地リスト

- ① 第二中学校隣接地
- ② 南小学校隣接地
- ③ 市役所伯太庁舎隣接地
- ④ 伯太中学校・南小学校隣接地

「第2回再編地域協議会だより」より抜粋

〈各校区から意見のあった候補地(案)〉 ※複数回答有り

①第二中学校隣接地・・・候補に挙げた校区数2

【意見】

土地を確保しやすい

②南小学校隣接地・・・候補に挙げた校区数6

【意見】

移動負荷が少ない

主要道路に面している

一次選定エリア内のほぼ中心地にある

③市役所伯太庁舎隣接地・・・候補に挙げた校区数2

【意見】

伯太庁舎隣接ということで、災害時などに迅速に対応ができる

④伯太中学校・母里小学校隣接地・・・候補に挙げた校区数0

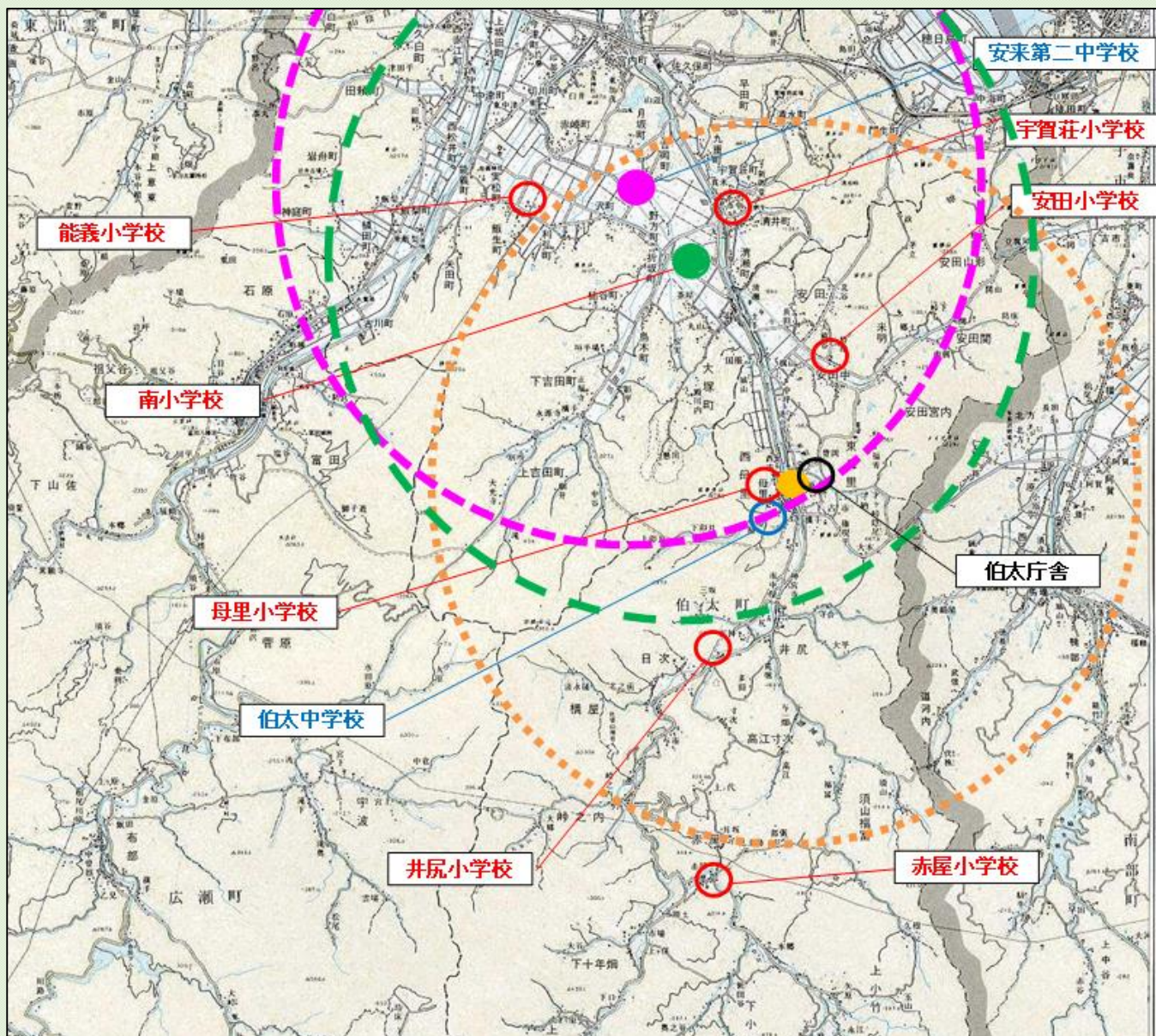
【意見なし】

Q&A

自転車通学の距離は？

→概ね6km以内を自転車通学と考えています。

※自転車通学（6 k m）の目安



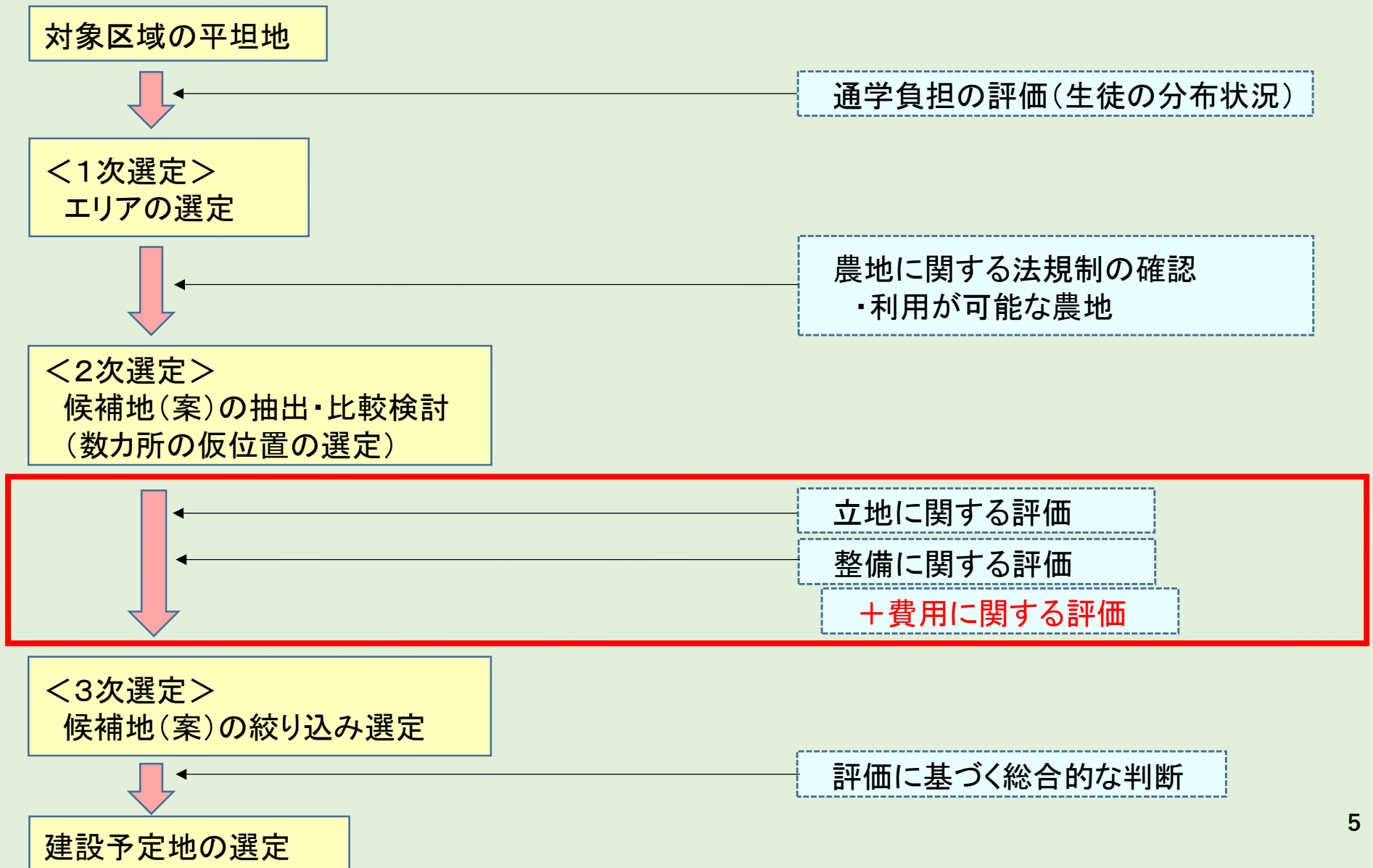
候補地から6 k mの距離
(直線距離)

--- 第二中学校

--- 南小学校

... 市役所伯太庁舎
伯太中学校
母里小学校

中学校の選定フロー



1) 立地に関する評価

立地している場所の利便性や安全性、環境性等を評価した。

① 利便性に関する評価

利便性については、生徒が通いやすい環境にあるか、また保護者などが送迎やイベントなどに来校する時のアクセスの容易性について評価する。

項目	考え方	指標	重み 係数
生徒数	より多くの生徒の通学時間が短い方が生徒の負担か少ないことから、移動負荷を算定して評価する。	移動負荷数	3
	自転車圏内の生徒数が多い方(バス通学者が少ない方)が通学の自由度は高いので、その生徒数で評価する。	6km 以内の生徒数の割合	3
アクセス	自動車の通行に支障のない幅の道路に接していれば、保護者や学校関係者の利便性が高い。	アクセス道路の幅員で評価	2

※ 町丁目別の集落人口中心部を設定し、そこからの通学距離（道のり）を想定し、町丁目毎に通学距離を計測し、範囲内の生徒数を集計する。

※ 移動負荷数は、上記の通学距離に生徒数を乗じた数で、数値が低い方が、全体的に通学時間（移動負荷）が少ないと想定される。

1) 立地に関する評価

立地している場所の利便性や安全性、環境性等を評価した。

② 安全性に関する評価

安全性については、防災の観点から災害のリスク、通学時の安全性、防犯や緊急時の備えとしての安心性について評価する。

項目	考え方	指標	重み 係数
災害リ スク	【洪水】 検討する学校は、飯梨川、伯太川の流域にあり、洪水被害が広い範囲で想定されている。 洪水被害の危険度として浸水深で評価する。	浸水想定区域の有無、浸水深(想定最大規模)	2
	【既往災害(水害)】 大きな氾濫災害だけでなく、過去の冠水の発生などによる危険性について評価する。	過去の水害発生の有無及び近接性	2
	【既往災害(地震)】 地震については、どこでどの程度の規模の地震が発生するか予測が困難であるが、近隣地での地震発生(鳥取西部地震)時の被害状況で危険性を評価する。	過去の地震による地盤被害の有無	2
交通 安全	通学時の交通安全の評価としては、登校時の最寄りの自動車交通量で評価する。(交通量が多いと事故発生の可能性が高くなる)	隣接道路の通学時間帯の交通量	1
安心	防犯上の観点から、近くに警察署や駐在所などがあれば、比較的安心度は高まる。	警察署・駐在所からの距離	1
	校内での事故や緊急対応として、消防車や救急車ができるだけ早くきた方が安心度は高まる。	消防署(本部・分署)からの距離	1
	緊急時に救急搬送される救急告示病院までの距離を評価する。	救急告示病院からの距離	1

1) 立地に関する評価

立地している場所の利便性や安全性、環境性等を評価した。

③ 環境性に関する評価

環境性については、一体的な利用などによる利便性や効率性の観点から連携利用が期待される他の公共施設との近接性について評価する。

項目	考え方	指標	重み 係数
周辺 施設	放課後のちょっとした居場所やバス通学のちょっとした待ち時間が過ごせる場があれば連携利用されやすい。	休憩・学習施設（図書室など）との距離	1
	総合文化ホールが近くにあることで、学校行事（音楽祭など）との連携利用が期待できる。	総合文化ホールとの近接性	2
	中学校のクラブ活動等に活用できる総合運動公園（野球場やグラウンドなど）があることで円滑なクラブ活動が期待できる。	総合運動公園との近接性	2
イン フラ	新規であり、安定供給ができる水道に接続しやすい位置であることが望ましい。	接続可能な水道の種類	2
	新規であり、下水道に接続しやすい位置であることが望ましい。	接続可能な下水道本管の有無等	2

1) 立地に関する評価

立地している場所の利便性や安全性、環境性等を評価した。

④ 関係法令等に関する評価

中学校用地は新たに造成を行って確保することを基本とし、法規制上の優位性や困難性（開発手続きの容易性）に関して評価する。ただし、一部既存施設を活用する場合も想定される。

※候補地の抽出によっては、評価の対象にしないこともある。

項目	考え方	指標	重み 係数
法規制	【農業振興地域の整備に関する法律】 対象エリアはほとんどが農業振興地域であるとともに、農地が対象となることも想定される。	農振農用地の指定 状況	2
	【農地法】 農地は、上記の指定の他、その土地の営農条件や市街地化の状況から判断して4つの農地に区分され、許可基準に差がある。	農地の区分	2
	【文化財】 文化財については、候補地が明確になった段階で、その詳細を紹介し、開発の難易度を評価する。	文化財包含地	1

2) 整備に関する評価

用地確保、整備工事の容易性、必要な付帯工事の有無等を評価した。

評価をするにあたって、新設中学校に必要な面積を3.0ヘクタールと想定し、既存施設の敷地を活用できる場合は、合計して概ね3.0ヘクタールとなるように新たに取得する用地を設定した。

候補地	隣接地の農地区分	既存施設 の土地面積 (ha)	取得面積 (ha)	合計面積 (ha)
① 第二中学校隣接地	甲種農地	2.0	1.0	3
② 南小学校隣接地	甲種農地、第一種農地	1.9	1.0	2.9
③ 市役所伯太庁舎隣接地	第三種農地	0.0	2.9	2.9
④ 伯太中学校・母里小学校隣接地	第一種農地	2.2	1.0	3.2

※農地法において、「甲種農地」、「第一種農地」は既存面積の1/2を超えない範囲で転用が可能。

2) 整備に関する評価

用地確保、整備工事の容易性、必要な付帯工事の有無等を評価した。

2) 整備に関する評価

中学校の建設にあたり、整備費に関する評価は重要であり、用地確保、整備工事の容易性、必要となる付帯工事の有無などについて評価する。

項目	考え方	指標	重み 係数
用地 確保の 容易性	【用地確保の容易性】 土地所有や土地利用の状況などから、用地確保の容易性について評価する。 民有地の場合には耕作の状況等も踏まえて評価する。	市有地の割合	1
	【用地取得費】 過去の実績を元に想定される用地の単価について評価する。	用地取得単価	3
整備の 容易性	【取付道路】 幹線道路から離れた敷地においては、取付道路等の必要性や距離について評価する。	整備の必要性、改良距離など	3
	【アクセス道路との高低差】 アクセス道との高低差が少ないほど、アクセスが容易になるとともに、造成も容易になる。	アクセス道との高低差	3

3)費用に関する評価（各候補地の費用比較）について

	用地取得及び盛り土 ・造成費用 ※1	校舎及び体育館の 建設費用 ※2	事業費合計	基本構想から開校 までの期間
①第二中学校隣接地	1.9億円～2.0億円 用地取費(既存敷地1/2) 盛土購入、造成・擁壁費用 造成高 1.5m	36億円～41.4億円 ※体育館は既存施設を利用	37.9億円 ～43.4億円	6年～7年
②南小学校隣接地	1.6億円～1.7億円 用地取費(既存敷地1/2) 盛土購入、造成・擁壁費用 造成高 1.0m	42億円～49.4億円 ※体育館は新設(6～8億円)	43.6億円 ～51.1億円	6年～7年
③市役所伯太庁舎隣接地	7.1億円～7.4億円 用地取費(2.9ha新規取得) 盛土購入、造成・擁壁費用 造成高 2.0m	42億円～49.4億円 ※体育館は新設(6～8億円)	49.1億円 ～56.8億円	7年～8年
④伯太中学校・母里小学校隣接地	2.8億円～2.9億円 用地取費(既存敷地1/2) 盛土購入、造成・擁壁費用 造成高 2.0m	36億円～41.4億円 ※体育館は既存施設を利用	38.8億円 ～44.3億円	6年～7年

※1 … 用地取得費は、直近の官公庁の買収単価を基に試算した。

取得した用地の造成高については、隣接地の高さと同レベルとなるように設定した。ただし、②南小隣接地は現状を考慮した。

※2 … 校舎の延べ床面積については、推計される学校規模及び文部科学省設置基準、国庫負担金等に基づく補助基準等に基づき、普通教室(6学級)、特別支援教室(3学級)、多目的スペースを考慮し、4,008㎡で試算(鉄筋コンクリート造で20億円、鉄骨鉄筋コンクリート造で23億円。間接経費は×0.8にて試算)。

4) 3次選定に向けての評価結果

候補地	立地に関する評価	整備に関する評価	費用に関する評価	合 計
① 第二中学校 隣接地	・幹線道路に近接している ・過去の災害履歴なし	・取付道路の整備の必要性なし	37.9億 ～43.4億円	
	・農地法の制約が多い ・休憩・学習施設との距離が遠い			
評価点	75	21	15	111 (98.2)
② 南小学校 隣接地	・移動負荷が少ない ・自転車通学圏内の生徒数が多い	・取付道路の整備の必要性なし	43.6億 ～51.1億円	
	・農地法の制約が多い ・休憩・学習施設との距離が遠い			
評価点	83	21	9	113 (100.0)
③ 市役所 伯太庁舎 隣接地	・農地法の制約が少ない ・過去の水害履歴なし	・取付道路の整備の必要性なし	49.1億 ～56.8億円	
	・文化ホール、運動公園との距離が遠い			
評価点	57	18	9	84 (74.3)
④ 伯太中学校 母里小学校 隣接地	・休憩・学習施設との距離が近い	・アクセス道との平均高低差が少ない	38.8億 ～44.3億円	
	・農地法の制約が多い ・文化ホール、運動公園との距離が遠い	・取付道路の整備が必要		
評価点	38	30	15	83 (73.5)

※ 各候補地で上段が主な優位な点、下段が主な懸念される点。()内は最高点を100とした場合の指数

評価及び課題等について

候補地	評価及び課題等	総合評価
①第二中学校隣接地	・立地に関する評価・整備に関する評価が比較的高い ・事業費が低く抑えられる ・敷地の形状が整っているため、配置計画に比較的自由度がある ・体育館は既存施設(南体育館及び二中体育館)を利用できる	
②南小学校隣接地	・立地に関する評価・整備に関する評価が高い ・事業費が比較的高い ・敷地が長方形となった場合、建物配置に制約がある ・建物配置によっては、南小の仮移転及び解体費用が発生する可能性がある ・校舎の建物配置によっては工期が伸びる可能性がある ・既存敷地に一部借地がある	
③市役所伯太庁舎隣接地	・立地に関する評価・整備に関する評価が比較的低い ・事業費が高い ・新設のため、敷地の形状及び建物配置に自由度がある ・造成、盛り土費用が高額となる ・すべての敷地が用地造成からであり工期がかかる ・地盤調査やインフラ整備に時間を要する ・チューリップ栽培に支障がある	
④伯太中学校・ 母里小学校隣接地	・立地に関する評価・整備に関する評価が低い ・事業費が比較的低く抑えられる ・敷地形状が不整形である ・交通アクセスがよくない ・敷地の高低差があり、盛り土費用が高額となる ・体育館は既存施設(伯太体育館及び伯太中体育館)を利用できる	

※ 各候補地周辺の航空写真

①第二中学校



②南小学校



③市役所伯太庁舎



④伯太中学校・母里小学校





**わたしたち大人が
未来を生きる子どもたちのため
今 考えるときである**